

くにみ 議会だより

No.163

12月議会号



若い力で国見の未来をつくる

観月台文化センターでの成人式。ふるさとへの思いを新たに、若い力で国見の未来を切り開きます。

12月定例会

厳しい財政状況も

将来に向け借金返済を選択

(平成26年度補正予算) P2

地域包括支援センターを民間委託 P5

一般質問(道の駅建設や元気活力イベントなど6人が登壇) P7

道の駅計画などを町民のみなさんと意見交換(議会報告懇談会) P14

学校への住民参加や防災対策を調査(常任委員会報告) P16

地域づくりと農業改革の課題を議論(研究セミナー報告) P18

傍聴者からの声「資料が配られ、わかりやすかった。」 P19

道の駅建設など厳しい財政状況も

将来に向け借金返済を選択

12月議会定例会は12月9日から12日まで4日間の会期で開かれました。

今定例会には、歳計剰余金を処分するための町債(借金)返済をする補正予算や福島県人事委員会勧告による職員給与の改定、新庁舎の事務機の購入など17議案が提出され、すべて原案どおり可決、承認しました。

一般質問では6人の議員が登壇し、11項目にわたって町政をたどりました。



28年度中の開業を目標に進められている道の駅(イメージ)

平成26年度一般会計 補正予算(第3号・第4号)のおもな内容

【おもな事業】

| | |
|------------------------|----------|
| 町債(借金)返済 | 1億1000万円 |
| 新庁舎への防災設備移設、情報機器整備 | 3265万円 |
| 人件費(給与改定分と時間外手当など)の不足分 | 1697万円 |
| 森林再生事業の事前調査費用 | 1460万円 |
| 道の駅整備のため職員3人を採用 | 1221万円 |
| 燃料費や電気料金の高騰による不足分 | 710万円 |
| 衆議院議員選挙の人件費など | 700万円 |
| 観光力づくり事業 | 668万円 |
| 教科書改訂に対応する教職員指導書購入 | 546万円 |
| 中学校部活動補助金(県・東北大会出場) | 237万円 |
| 公用車の買い替え(2台) | 202万円 |
| 災害援助資金返済、イベント補助金など | 2256万円 |
| 計 | 2億3962万円 |

【おもな財源】

| | |
|---------------------------|----------|
| 国・県からの補助金(新庁舎建設、森林再生事業など) | 1億6149万円 |
| 前年度からの繰越金など | 7283万円 |
| 災害援助資金返還、基金(貯金)利子など | 530万円 |
| 計 | 2億3962万円 |

町債(借金)の残高

| 会計名 | 25年度末現在 | 26年度末見込 |
|------|-----------|-----------|
| 一般会計 | 54億7872万円 | 56億3481万円 |

財政調整基金(貯金)の残高

| 会計名 | 25年度末現在 | 26年度末見込 |
|------|----------|----------|
| 一般会計 | 8億3071万円 | 8億3160万円 |

※歳計剰余金とは
前年度の収入から支出を差し引いた残額。その半分以上を基金(貯金)に積みかさねる。繰上償還(借金の期限前返済)に使わなければならない。

一般会計 補正予算

平成26年度補正予算のうち、一般会計は、2億3962万円を増額し、予算総額を14億7275万円とすることを全員賛成で可決しました。

決しました。おもな増額は、歳計剰余金を処分するための町債(借金)返済1億1000万円、新庁舎への防災設備移設や情報機器の整備費用3265万円、職員給与の改定分や時間外手当の不足分1697万円、その財源は、国・県からの補助金や前年度からの繰越金でまかないます。また、公共下水道事業、介護保険の特別会計と水道事業会計の補正予算も全員賛成で可決しました。



質疑

公用車の更新基準は

問

(佐藤定男議員)

公用車の買い替え基準はあるのか。なぜ当初予算で計画しないのか。

総務課長

どの公用車も耐用年数を過ぎて限界ま

まちづくり事業補助金の内容は

問

(松浦常雄議員)

1000年のまち。これから100年のまちづくり事業補助金200万円の内容は。

で使用するため、使えなくなった時点で予算を計上したものの。

燃料費や電気代が増えた理由は

問

(村上晴夫議員)

燃料費や電気料が710万円も増額されている。その理由は。

で使用するため、使えなくなった時点で予算を計上したものの。

観光力づくり事業の内容は

問

(東海林一樹議員)

観光力づくり事業668万円の内容は。

産業振興課長

4月から6月にかけて、全国

3月に「春のフードフェスタ」を実施するため、予算を組み替えるもの。

高齢者対策費の減額はなぜか

問

(阿部泰藏議員)

高齢者対策が課題なのに、老人福祉費170万円をなぜ減額するのか。

保健福祉課長

敬老祝金と敬老会事業が終了し、その不用分を減額したものの。

電気料金の改定や原油の高騰と、職員が残業による電気代の増加がおもな理由。

時間外手当の積算があまりいのでは

問

(村上晴夫議員)

業務量の増加に比べて時間外手当の当初予算が少なく、4000万円も補正増をしている。当初予算の積算があまりいのでは。

総務課長

町の財政状況が厳しく基金(貯金)を取り崩して当初予算を作成している。このため、時間外手当は一定水準の金額に

職員手当の見直しは進んでいるのか

問

(村上晴夫議員)

職員の特殊勤務手当は6月議会で再開を決定し、3月議会までに見直しと答弁があったが、現在の状況は。

総務課長

現在、国・県、近隣市町を調査し、内容を確認している。

森林再生事業の内容は

問

(松浦常雄議員)

福島森林再生事業1460万円の内容と委託先は。

産業振興課長

石母田地区での間伐事業の計画作成や調査を福島県北森林組合に委託するもの。

農地集積・集約化 対策事業の内容は

問

(村上正勝議員)

農地集積・集約化
対策事業費補助金131万
円の内容は。

**産業振興
課**

農地の集約化
のため、農業委

員会の農地データシステム
を改修するもの。広域的な
農地の利用を全国農業会議
所や農地中間管理機構の
データと連携させ、また、
国の人・農地プラン補助金
制度を利用できる体制作り
を進めていきたい。



学校支援地域ボランティアによるしめ縄づくり教室(国見小学校)

仮設住宅の期間 終了後の対応は

問

(浅野富男議員)

平成28年3月末で
仮設住宅の入居期限が切れ
る。入居者への町の対応は。

**建設
課長**

公営住宅の改修な
ど住みやすい居住環
境を整備し、入居をあっせ
んしたい。

地域コミュニティ再生 支援事業の内容は

問

(松浦常雄議員)

地域コミュニティ
再生支援事業53万円の内容
は。

**生涯学習
課長**

被災地での社
会教育を支援す
るもので、学校運営に地域
の人材を積極的に活用する
ため、学校支援地域本部が
小中学生の下校時の見守り
のボランティアをお願いす
るときのジャンパー、帽子
などの購入費。

条例その他

職員の給与・一時金を引き上げ

職員給与条例の 改正

(要旨) 県人事委員会勧告
により職員給与の月額を平
均0・18%、一時金を0・
15カ月引き上げるもの。
(全員賛成で可決)

給与引き上げ 分の総額は

問
(阿部泰藏議員)
今回の給与引き上
げで給与や手当はいくら増
えるのか。

**総務
課長**
当初予算と比較す
ると一般会計は一時
金が300万円ほど増える。

新庁舎の事務机 購入を決定

動産の取得

(要旨) 新庁舎の事務机な
ど備品一式を1004万円
で「富士ゼロックス福島株
式会社(郡山市)」から購入
するもの。
(全員賛成で可決)

古い机などを 再利用しては

問
(村上晴夫議員)
新庁舎の事務机な
どを購入するが、古い机は
すべて廃棄するのか。

**総務
課長**
できるかぎり売却
し、転用できるもの
は活用方法を考えたい。

※ 地域包括支援 センターを民間委託

サービスが低下するのでは

問

(渡辺勝弘議員)

地域包括支援センターを民間委託すると説明があったが、今回の補助金の補正内容は。

課保健福祉

平成27年4月から業務を委託する準備として、委託候補先が採用する職員の経費を町が全額負担するもの。

問

(渡辺勝弘議員)

これまで町が直接実施してきた業務を民間に委託することでサービスが低下するのでは。

課保健福祉

業務の一部を委託するだけで、

町が責任をもって対応する。また、第三者機関である運営協議会が事業計画などを確認する。



はつらつ運動教室で介護予防
(観月台文化センター研修室)

※地域包括支援センターとは
介護相談をする場合の介護、福祉、医療の総合窓口。
いきいきサロンなどの介護予防事業の実施、要介護状態になる前の介護予防計画の作成、福祉や医療などのサービスの紹介や虐待防止、財産管理の相談などをおこなう。

町長の行政報告 (抜粋)

■東日本大震災の早急な復旧・復興

- 住宅・宅地の除染は、今年度の目標1500戸のうち、1076戸が完了。 ※町全体の目標3300戸のうち、2125戸が完了。(1月21日現在)
- 道路の除染は、山崎、石母田、川内地区などで153路線、延べ42.5^{キロメートル}を発注。森林除染は、小坂、山崎、石母田地区の住宅地に隣接する森林5.8^{ヘクタール}を発注。(1月21日現在)
- ホールボディカウンターによる内部被ばく検査は、1135人が受検し、健康に影響を与える数値は検出されていない。(1月21日現在)
- 平成26年産米の全量検査は、6万8424袋を実施し、国の基準を超える数値は検出されなかった。(12月11日で全部終了)
- 農作物の風評被害対策は、11月に「東北がんばっぺ大使」の秋吉久美子さんが来町し、町内産米のおいしさ、安全・安心を発信した。また、小学生対象の稲刈り体験事業やあんぼ柿加工体験事業を実施した。
- 平成26年産のあんぼ柿の加工生産は、町内全域が加工再開モデル地区に指定され、対象農家250戸のうち175戸が生産。出荷量は震災前の3割強で約110^{トン}の見込み。

■思いやりのあるまちづくり

- 阿津賀志山防塁の発掘調査を森山東国見地区で実施し、遺跡や古道の痕跡が確認された。

■安全安心なまちづくり

- 各地区防災訓練は、自主防災組織が主体となり10月に実施。避難訓練には町民2300人と自衛隊、消防、日赤奉仕団などが参加。

■活力あるまちづくり

- 「道の駅機能を核とした複合交流施設(里まち文化ステーション)」は、駐車スペースを拡大するために計画を追加変更し、用地交渉を進めている。

■町の継続的な維持発展

- 交流人口の増加を目的に「東京くにみ会」を開催し、首都圏の町の縁者など約250人が参加。町の農産物や加工品を味わってもらい、新たな交流を作った。
- 少子化対策は、10月から「少子化を考える住民懇談会」を開催し、出された意見から提言をまとめる予定。11月に「若者交流事業」実行委員会を組織し、若者が出会い、交流できる事業を開催予定。
- 町内各分野の人と合同町政懇談会を開催し、若者を含め連携と交流をはかった。
- 幼小中一貫教育推進事業は、10月31日と11月1日に、幼稚園児から中学生までが参加したビッグアート制作やステージ発表、有名な絵本作家などの講演会を実施した。

意見書

12月定例会では意見書1件を全員賛成で可決し、国など関係機関へ送付しました。

2015年度予算(介護・子ども)の充実・強化を求める意見書

介護保険制度の改正により地域間格差やサービス低下を招かないよう、また、子ども・子育て支援新制度の本格実施に向け、予算の確保を求めるもの。

可決

みなさんからの 請願・陳情

12月定例会では陳情2件を常任委員会で審査し、結果は以下のとおりとなりました。

| 陳 情 | 提 出 者 | 結果(※) |
|---|----------------------------|---|
| 2015年度予算(介護・子ども)の充実・強化を求める意見書提出の陳情 | 自治労国見町職員労働組合 執行委員長 中條伸喜 | 採択 (全員賛成) |
| 「集団的自衛権行使容認の閣議決定を撤回し、立法化しないことを国に求める意見書の提出」を求める陳情書 | 新日本婦人の会 伊達支部 代表 堀江ミヨ子 | 不採択 (採択に賛成1、採択に反対9) |
| 採択に賛成 | 浅野 富男議員 | 憲法を守るべき立場の首相が、閣議決定でその解釈を変えるのは立憲主義に反し、この政府の動きは過去の戦争に結びつく恐れがあるため、本陳情は採択すべき。 |
| 採択に反対 | 議員 9人 | 政府や各種団体でさまざまな考えがあり、町議会が取り上げる議題としてなじまないため。 |

※議長は採決に参加しない。副議長は欠席。

議会ホームページも ご覧ください

議会日程、議会だより、議会内容を記録した会議録はもちろん、議会生中継をしています。

生中継はインターネットを使ってご覧いただくことができます。「議会ホームページ」トップページの「議会中継」をクリックすれば動画が見られます。

ぜひご覧ください。



<http://www.town.kunimi.fukushima.jp/groups/gikai/>

一部事務組合報告

職員給与を改定し 一時金増額を決定

藤田病院組合議会

12月19日、第4回議会臨時会が開催され、病院職員の給与を改定する条例1件が可決されました。
これは、福島県人事委員会勧告により一時金を引き

上げるものです。
また、10月までの収支状況は、9月以降の入院患者が増えたため改善し、5月に設置された地域包括ケア病棟も整形外科、脳神経外科を中心に80%を超える稼働状況です。
(報告者 渡辺勝弘)

※一部事務組合とは
複数の市町村が、事務の一部を共同で行うために設置する団体。

～6人の議員が登壇し、活発な議論を展開～



町政を問う

一般質問

12月定例会

一般質問とは、議員が町政全般にわたり執行状況や将来に対する方針など、諸問題について質問をおこない、政治姿勢を明らかにするものです。

| 議員 | 質問事項 | ページ |
|-------|-----------------------|-----|
| 松浦 常雄 | 新年度の町政をどう進めるのか | 8 |
| | 農家などの機械を利用して除雪できないか | |
| | 粗大ごみの回収方法の改善を | |
| 佐藤 定男 | 子どもの貧困対策に基金を活用しては | 9 |
| | 掲示板設置補助を拡充できないか | |
| 東海林一樹 | 道の駅建設の財源は | 10 |
| 渡辺 勝弘 | イベントが多すぎるのでは | 11 |
| 浅野 富男 | 広域的な農作物の鳥獣被害対策には県の支援を | 12 |
| 井砂 善榮 | 国産産モモのブランド化は進んでいるのか | 13 |
| | 米価下落で稲作経営は大丈夫か | |
| | 空き家バンクを設置しては | |

質問、答弁は要約して掲載しています。会議録全文は、町議会ホームページに掲載予定です。[<http://www.town.kunimi.fukushima.jp/groups/gikai/>]

国見町議会ホームページ → 会議録検索 → 会議録検索システム → 会議録検索システムへ

Q 新年度の町政をどう進めるのか

A 地方創生を活用した総合戦略を策定する



松浦常雄議員

問 今年度当初予算は130億円を超す大型予算だ。町政のおもな事業の執行状況は。

町長 これまで、「国見の未来をつくる5つの目標」を掲げ、大震災からの復旧・復興や元気活力事業などを実施した。特に住宅

除染、浄化センターの汚泥問題、風評被害の払拭に積極的に取り組んできた。また、元気活力事業各種イベントや東京くにみ会など新規事業も含めておおむね順調に進んでいる。今後予定している「フードフェスタ」などにも積極的に取り組んでいく。

問 新年度予算編成の考え方、重点的事項の概略を聞く。

町長 引き続き目標達成に向け事業を実施していく。特に、国の「地方創生」予算を活用する総合戦略の策定や役場新庁舎の落成に合わせた「町制施行60周年記念事業」、平成28年度中の開業に向けた「里まち文化ステーション(道の駅)整備事業」、「歴史まちづくり計画」への取り組み、「義経まつり」のイベントなど、まちづくりや交流人口の拡大に直結する各種事業を重点的に進めていく。

農家などの機械を活用して除雪できないか

問 平成26年2月豪雪の除雪について庁内でのような検証をおこなったのか。

建設課長 建設業協会と今年度の除雪範囲を見直した。しかし、2月の豪雪は現有する建設機械の状況では全路線を除雪することは不可能だ。幹線道路主体の除雪となることをご理解願いたい。

問 豪雪時、集落内の町道を除雪できないと救急車などが入れない。除雪業者ができない場合は農家の機械を活用して早急に除雪しては。

建設課長 今後、豪雪対策に向け国、県、

自主防災会、消防団などによる協議会の設置について、先進地を参考に検討を進める。

粗大ごみの回収方法の改善を

問 粗大ごみの回収は、事前連絡が原則だ。近隣市町のように事前連絡なしで曜日だけを決める方法に変更できないか。

不便である。月2回に増やせないか。

住民生活課長 ほかの市町も月1回

だ。本町は古紙類のほか、ビン類やアルミ缶なども回収している。今後も現行の回収体制を維持し、子供会などによる資源回収を積極的に実施して、ごみの減量化を進めていく。

住民生活課長

事前連絡なしの近隣市町では、粗大ごみ以外のタイヤなどのごみも出されて非常に困っていると聞く。現在の方法でご理解願いたい。

問 資源ごみを出す日が月1回では



新年度は道の駅整備を進める(直売所のイメージ)

Q 子どもの貧困対策に基金を

活用しては

A 基金の取り崩しは難しい

問

子どもの貧困率*が大きな社会問題となっている。

平成25年度で年間所得が120万円未満の家庭に暮らす子供の割合は、16割で約6人に1人となっている。非常に憂慮すべき事態である。

町長

国の国民生活基礎調査には、本町の数字は出ていない。中学生以下を対象とした児童手当やひとり親世帯を対象とした児童扶養手当の受給状況から推測すると調査結果と同程度の子供が該当するものと考えている。

問

※子供の貧困率 国民の所得を低い順に並べて、真ん中の順番の人の所得の半分に満たない人の割合。

問

国の対策は財源不足を理由に。従来は政策ばかりだが、国がやらないなら町独自にやれないか。

町の「ふれあい福祉基金」に1億5000万円の残高があるが、子どもの貧困対策に活用できないか。

保健福祉課長

この基金は利子を活用するためのもので取り崩すことは難しい。

要望

貧困家庭で高校大学の教育費を捻出することは不可能に近い。

十分な教育を受けられず、就職も不利になり、大人になっても貧困から抜け出せない負の連鎖が問題だ。

町政の重要課題として取り組むべきである。

掲示板設置補助を拡充できないか

問

町内会集会所の掲示板は、町内会の情報発信をはじめ、町の広報・周知の役割を担っている。

しかし、ほとんどが雨、風をしのぐ作りではなく、掲示してもすぐにはがれてしまい役に立っていない。

このような状況をどう考えているか。

住民生活課長

町内会が設置し、維持管理するものである。

問

掲示板設置には補助金交付制度がある。制度の内容と実績を問う。

住民生活課長

補助率は50割以内で、補助上限額は3万円である。実績は平成24年度の1件のみである。

問

掲示物の内容は町からの発信がほとんどである。正確な情報を確実に伝達することは行政の基本である。補助額の上限を新たに定めて全額を補助できないか。

町長

ほかの自治体の事例などを調査し、補助限度額を町内会長と協議して結論を出していきたい。



佐藤定男議員



赤十字広報特使・藤原紀香さんの訪問に子どもたちも大喜び(県北中学校)

Q 道の駅建設の財源は

A 町負担の圧縮に努力している



東海林一樹議員

町負担の圧縮に鋭意努力している。

問 町が5000万円を出資して

株式会社を設立し、代表を町長とする予定だが、実質運営を指揮する駅長の人選時期は。

産業振興課長 公募により、1月末までに決定したい。

問 物販部門での商品を仕入れる方法は。

産業振興課長 農産物は2月に出荷

組合を設立予定だが、商店街の組織化が遅れている状況だ。

問 施設全体での雇用人数は。

産業振興課長 約70人で、そのうち正職員は7人を予定している。

問 ほかの道の駅と違った施設とする効果は何か。

産業振興課長 本町が維持継続するには、町内外へ情報を発信し町に人呼び込み、交流人口を拡大することである。その拠点とするため道の駅の

問 宿泊施設を計画しているが、その収容人員は。

産業振興課長 現時点では最大30人を予定している。

機能をほかに、地元の農産物や商品の販売、食堂に加え、コンビニエンスストア機能、高齢者や子育て世代を支援する機能、防災拠点機能、宿泊機能などを付加することにした。

産業振興課長 物販、食堂・コンビニ

ニ、宿泊施設などを収益源に、管理経費をまかなえる収支構造を作り、開業3カ年で黒字転換を目指す計画。

問 収支計画の売上額を想定した根拠は。

産業振興課長 これまで道の駅経営で実績のある人の助言をもとに算定した。

問 売り上げを1万円と見込んでいる。集客者数は。

産業振興課長 年間70万人を見込んでいる。

問 道の駅の総事業費はいくらか。その内訳は。

町長 総事業費は21億5000万円。内訳は表のとおり。

問 その財源をどのように捻出するのか。

道の駅の総事業費内訳

| | |
|---------|-----------|
| 国直轄事業分 | 6億3000万円 |
| 町事業分 | 15億2000万円 |
| 町事業分の内訳 | |
| 用地取得費 | 1億6000万円 |
| 外構工事費 | 3億3000万円 |
| 建築工事費 | 9億3000万円 |
| 委託費 | 1億円 |

町長 町の持ち出しは4、5億円と見込んでいる。さらに

見込んでいる。さらに



野崎洋光氏が道の駅の看板メニューを審査(レシピコンテスト)

Q イベントが多すぎるのでは

A 将来の町の維持発展につなげるため 今こそ必要だ



渡辺勝弘議員

26年度のおもなイベント

| | | |
|-----|--|---------------------------------|
| 4月 | 桜のライトアップ点灯式 春の町民ウォーキング大会 | |
| 6月 | 国見ルネサンスふるさと祭 アフタヌーンティー・パーティー | |
| 8月 | 国見応援団ツアー 国見まるごと再発見夏祭り | |
| 9月 | 義経まつり | |
| 10月 | 秋の町民ウォーキング大会& ひまわりの集い | |
| 11月 | 幼小中一貫教育推進事業 くにみ産業祭 野崎洋光氏講演会、第1回国見 のおいしいレシピコンテスト 森のおもちゃフェスティバル ママまつり イルミネーション点灯式&キャ ンドルパーティー 東京くにみ会 和太鼓フェスティバル | |
| | 12月 | ビッグツリー点灯式&キャ ンドルパーティー |
| | 1月 | イルミネーションクロージング パーティー |
| | 2月 | 国見まちづくりカフェ 春のフードフェスタ |
| | 3月 | 野崎洋光氏講演会、第2回国見 のおいしいレシピコンテスト |

問 元気活力風評被害対策事業として実施している各種イベントを来年度も継続していくのか。

町長 本町の維持発展には欠かせない事業である。国・県からの交付金や補助事業を有効に活用しながら、事業の効果や規模

などを十分精査し、来年度も引き続き取り組んでいく。

問 職員の超過勤務が昨年同様に比べ6割も増加している。その結果から職員の負担増が推測される。職員の健康管理は十分把握しているのか。

職員はぎりぎりの状態で仕事をしている。一般業務に支障をきたして町民に不安を与えかねないと思うが。

総務課長 月60時間以上「健康チェック」をおこなっている。

問 職員の超過勤務が昨年同様に比べ6割も増加している。その結果から職員の負担増が推測される。職員の健康管理は十分把握しているのか。

町長 イベント部門をいかに分散するか組織改正も含め対応する。

問 イベントで実行委員や町民から疲れたという声が出ないようにしなければならぬと思うが。

企画情報課長 協力できる範囲でお願いしている。

問 イベントの数を減らして参加者が楽しめるイベントにしては。

企画情報課長 今後の本町の維持発展に必要な事業であり、ご理解ご協力をお願いしたい。

問

これらイベントで町をどのようにしていきたいのか、今後の展開を聞く。



首都圏から約250人が集まった東京くにみ会東京都・ルポール麹町

町長 本町を維持発展させ、未来につなげるための地盤をつくるには国などの支援がある今しかない。今やらないと合併のうねりの中に入っていく。その思いで今取り組んでいる。

Q 広域的な農作物の鳥獣被害
対策には県の支援を

A 県などに強く要請していく



浅野富男議員

問

近年、野生鳥獣による農作物の被害額は全国で200億円を超えている。本町での25年度の被害は10^{億円}で580万円だが、被害面積の割合はどのくらいか。

産業振興課長

鳥獣による被害面積の割合は全農地の約1

割と推計している。

問

統計的には増加傾向にあると思われるが実際はどうなのか。

産業振興課長

増加要因の一つには、農作物被害があった場合に、ためらわずに町へ届け出をする意識付



鳥獣被害対策実施隊がイノシシを捕獲（高城字家老地内）

問 町で補助している電気柵で防ぐことのできる獣類は限定される。被害額の

けが町民に浸透してきたためとらえている。

問

具体的にどのような取り組みを考えているのか。

産業振興課長

平成27年度の取り組みのの一つとして、小坂地区の約4^{キロメートル}の範囲で、一体となった侵入防止の電気柵を設置するため、国に要望をおこなっている。

減少につながっているのか。

産業振興課長

この補助事業は緊急避難的な措置である。今後は点で行うのではなく、面的に取り組まなければならないものと考えられる。



専門家による電気柵設置の講習（鳥取字水無地内）

問

獣類は移動することから広域的な取り組みが必要と考える。全国的には近隣市町村と一緒にやって鳥獣害防止に取り組んでいるところもある。広域的な取り組みは国、県の支援が重要になるが、どのような形で進められているか。

町長

すでに、ニホンザルでは広域連携に取り組んでいる。ツキノワグマやイノシシなどでも広域連携が効果的であり、県や近隣自治体に働きかけている。県にはあらためて強く要請し、対応していく。

Q 国見産モモのブランド化は 進んでいるのか

A 今後組織を立ち上げ推進して行く

問

平成25年9月議会で国見産モモの宣伝販売対策について質問した。「国見ブランドの創設を進める」との答弁だったが、その後の進捗状況は。

問

ブランド化を具体的にどう進めるのか。

産業振興課長

今後、生産者などを含めた「仮称国見町ブランド選定委員会」を立ち上げ、ブランド化を推進していきたい。

米価下落で稲作経営は大丈夫か

問

平成26年産米の価格が下落し、稲作農家は来年の稲作継続に不安を持っている。米価下落に対して町が支援する考えはあるのか。

産業振興課長

現時点で、町単独での下落分の補償的支援は考えていない。しかし、トップセールスなど機会あるごとに、国見産米のすばらしさを発信していく。

問

計画中の道の駅では国見産米をどのように付加価値をつけて販売するのか。また、農家と協議する考えはあるのか。

産業振興課長

米の販売はほかの産地との差別化を明確に出さないと大変難しい。すでに米農家と低農薬栽培など高付加価値の米づくりを相談し、支援している。

空き家バンクを設置しては

問

空き家実態調査事業の進捗状況は。

住民生活課長

現在は9月下旬より実施した現地調査の結果を整理している段階である。

問

町役場に空き家の売却や賃貸情報を移住希望者に提供するいわゆる「空き家バンク」を設置しては。

住民生活課長

調査結果を踏まえた上で、7月に開催した「国見町空き家対策連絡会議」を



国見ブランドを売り込みます(東京国際フォーラム)



井砂善榮議員

町長

町外各地に国見のモモのおいしさを積極的にPRしてきて手応えを感じて

いる。しかし、本来のブランド化はまだみちなかばである。今後も全国へのトップセールスの実施、6次化により付加価値をつけることや里まち文化ステーション(道の駅)の整備による普及啓発などに積極的に対応していく。

町民の皆さんと道の駅や女性 100人ツアーで活発な意見交換



議会報告懇談会 報告

議会基本条例に基づき、10月30日から11月1日まで町内5会場で議会報告懇談会を開催し、前回よりも36人多い町民95人が参加して意見交換を行いました。また、要望事項などは議会で協議し、担当課と意見交換を行いました。おもな内容は次のとおりです。

道の駅計画は進んでいるのか

問 道の駅の計画は進んでいるのか。実施設計には入ったのか。

議員 9月議会で株式会社に出資する500万円を決定した。

道の駅経営で赤字の心配は

問 道の駅の多くは赤字経営と聞く。国見町の道の駅は大丈夫なのか。

議員 当町の道の駅は、トイレと物品販売だけでなく、人が集まり、イベ

ントや宿泊ができるなど、ほかにはない施設を考えています。

道の駅の職員は町外からの定住者を

問 道の駅の職員は、町外から定住してくれる人を採用しては。

議員 町が事前に道の駅の職員を採用します。

女性100人ツアー効果は

問 女性100人ツアーの効果は出ているのか。また、事業は継続するのか。

議員 効果は長い目で見る必要があるが、町の宣伝と風評被害対策になっている。

町外への宣伝は後でもよいのでは

問 女性100人ツアーによる町外への宣伝は道の駅ができた後でもよかったのでは。

議員 参加者に国見の良さを発信してもらい、トップセールスにも応援に来てもらっている。桃農家にも相当の注文があったと聞く。

交流に力をいれるべき

問 交流事業では、人・物などの交流にもっと予算をかけるべきで



はないか。物産だけではなく人の交流を進めてほしい。

議員 岐阜県池田町、北海道ニセコ町、岩手県平泉町などと協定を結んでいる。

議会活動をもっと知らせるべき

問 議会の復旧復興への取り組みなど議会活動をもっとアピールすべきではないか。

議員 震災後の7月に特別委員会を立ち上げ、現地調査や下水汚泥の搬出を県、東電への働きかけをしてきた。国にも直接出向いてお願いし、意見書を提出してきた。



議員も活動に参加して

問 町民の復興支援活動に議員の参加がない。議員も一町民として参加し、活動を知ってほしい。

議員 すべてに参加するのは難しいが、活動が足りない点は反省したい。

議員からも要望を

問 牛沢川の土手が崩れて農作業をするのにも危険である。議員からも働きかけをお願いする。

議員 伊達郡の議員大会でも決議し、県に要望している。

水や食料の備蓄は十分か

問 防災倉庫に水や食料は十分保管されているのか。

議員 足りない場合を考えると、各自でも準備をお願いします。

人口減少への対策は

問 少子化問題や人口流出もあり、人口を増やす対策はどうするのか。

議員 町内の若者を集めた懇談会や少子化対策の住民懇談会を開催し、検討している。

側溝の除染を早くしてほしい

問 側溝の除染は町内会や個人では手に負えない。町でもっと早く進められないのか。

議員 現在は、住宅除染を優先しています。なお、町担当課に要望を伝えます。

役場駐車場は広くなるのか

問 新しい役場の駐車場は広くなるのか。

議員 地下を駐車場にして公用車を入れるため、町民用の駐車台数は多くなります。

ほかにもこんな意見がありました。

- ・イノシシ被害への対策を強化して。
- ・独り暮らしの高齢者が多く、空き家対策が必要。
- ・農家などに除雪を協力してもらってはどうか。
- ・粗大ごみの回収は、ほか

開催地区ごとの参加者数

| | | |
|--------|-----|-----|
| 10月30日 | 小坂 | 26人 |
| | 大枝 | 20人 |
| 10月31日 | 森江野 | 28人 |
| | 大木戸 | 8人 |
| 11月1日 | 藤田 | 13人 |

- ・の町と同じく事前受付をなくせないか。
- ・中尊寺蓮池への県道からの案内板が小さい。
- ・阿津賀志山に花木を植えて観光資源として活用してはどうか。
- ・街路灯が少ないため設置してほしい。
- ・婦人会活動の助成を増やしてほしい。



地域住民が学校活動に参加

コミュニティ・スクールを調査

総務文教 県外調査

11月10日と11日に、秋津小学校(千葉県習志野市)と赤羽台西小学校(東京都北区)で、コミュニティ・スクールの調査を行いました。

は、教育委員会が任命する保護者や地域住民などで構成する学校運営協議会に、学校の運営方針の承認や教育活動に意見できるなど一定の権限が与えられます。今まで以上に保護者や地域住民の声が学校に反映できるようにになります。



元気な子どもたちと一緒に(秋津小学校)

当町でも推進協議会を立ち上げ、その指定をめぐっています。

秋津小学校は、全国に先がけてコミュニティ・スクールを実践しています。会議は年3回ですが、そのほかに地域・家庭の状況などを学校に反映するため、環境、学習、安全、情報の4分野で地域住民がボランティア

アとして支援しています。今後は、地域住民の高齢化、少子化が進むため、この活動を継続できるかが課題になります。

赤羽台西小学校は平成26年4月にコミュニティ・スクールの指定を受けたばかりです。協議会は年4回開催し、さらに活動支援、心



首藤教頭から活動内容の説明を受ける(秋津小学校)



協議会での議論を活動に生かす(赤羽台西小学校)

の教育、安全安心の3つの分科会で支援しています。今後は、会議型から行動型の活動を行うことが課題で、その体験を共有し、協

議会形式でよくあるお任せ主義を解消することが課題になります。

(報告者 浅野富男)

災害の教訓を生かした防災対策

きめ細かな対応マニュアルなどを調査

産業厚生 県外調査

11月17日と18日、新潟県三条市で豪雨災害への対策の調査を行いました。

三条市は、平成16年7月に1時間85mmの集中豪雨で市内五十嵐川の氾濫やがけ崩れなどで死者9名、床上浸水513戸の被害がありました。



災害を教訓にした対応を学ぶ(三条市役所)

この被害をきっかけに、災害対策室を設置し、被害の分析、河川の改修、堤防のかさ上げを実施しました。また、情報伝達の迅速化、数値による避難基準の明確化、行政、市民、自治会それぞれの対応マニュアルを作成するなど対策に取り組みました。

道の駅の経営状況も調査
(三条市・道の駅漢学の里しただ)



その結果、平成23年7月の豪雨では降雨量が平成16年の約2倍にもかかわらず、死者1名、床上浸水13戸と被害を最小限に抑えることができました。

— 当町でも防災訓練などは実施していますが、自助、共助、公助に分かれたきめ細かなマニュアルが必要だと感じました。

— そのほか、三条市内にある「株式会社スノーピーク本社」の施設と「道の駅漢学の里しただ」の経営状況なども調査しました。

(報告者 渋谷福重)

町内の復興状況などを調査

3・11大震災復興対策 特別委員会調査

12月11日、特別委員会で新庁舎の建設など4カ所の調査を行いました。

J A 国見共選場で行われているあんぼ柿の全量非破壊検査は、昨年より多い5台の検査機で実施しています。しかし、1箱の検査時間は80秒以上もかかり、出荷の最盛期や生産制限が解除された後の検査体制に課題が残ります。

役場庁舎の建設は、3階までコンクリート工事が終わり、議場や会議室の広さなどが確認できました。議場の机は可動式になり、議会以外でも多目的に使用でき、利便性が高くなります。

県北浄化センターに建設される仮設汚泥乾燥施設は、乾燥機械が入る建物など3棟の建設がほぼ完成し、機器類も設置されました。今後は、試運転をし、4月から稼働できる見込みです。

森江野方部2号仮置き場は、徳江字江添地内に約1万6000平方メートルが整備され、すでに搬入を開始しています。森江野地区の除染で出た除去土壌などは2カ所の仮置き場にすべて搬入できる見込みです。

(報告者 松浦常雄)



新庁舎内部を調査 (新庁舎建設現場)



あんぼ柿の検査を調査 (JA国見共選場)



仮設汚泥乾燥施設の建設を調査
(県北浄化センター内)

地方の課題を議論し解決へ

地方自治研究交流セミナー報告

地方特有の課題を解決するため、県町村議会議長会、伊達郡町村議会議長会と福島大学が共催し、伊達郡町村議会の議員を対象に地方自治研究セミナーが開催されました。セミナーは全4回で、講演のほか、講師と議員の議論から課題解決をはかります。

なお、第3回は1月22日、第4回は2月上旬の予定です。

住民と一体となった地域づくりで人口減少問題を乗り越えよう

持続可能な地域づくりを目指して

―域学連携の取り組みから

講師 福島大学 岩崎由美子 教授

第1回報告
11月26日

岩崎先生は現在、内谷地区で学生と一緒にまちづくりの調査研究をしています。

「地方消滅」という人口減少予告を警告と受け止め、自治体が住民と一緒に作った地域づくりが必要です。また、学生や大学教員など外部からの協力(域学連携)が地域住民の新たな気づきや活性化につながります。

地方の知恵が未来を支える

地方には様々な文化、歴史、技や知恵があり、日本の未来を支えるアイデアは人口減少の先進地である地方からこそ生まれます。

福島を再生の最先端に

福島は原発事故で人口減少の課題にいち早く直面し



福大生が地域住民の声を聞きとり (内谷地区)

ています。しかし、ふるさとを捨てない取り組みで「再生の最先端」になることができます。

この講演内容をよく理解し、議員全員で地方活性化に取り組んでいきたい。(報告者 佐藤定男)

規制改革会議『農業改革』に問題あり

規制改革会議『農業改革』の問題点とこれからの農業・農村・農協

講師 福島大学 小山 良太 教授

第2回報告
12月18日

政府が目指す『農業改革』とは

規制改革会議の『農業改革』は、企業の新規参入の促進、農業委員会の見直し、農業生産法人の企業化の推進、地域農協が主体となる農協の自己改革をさせ、競争力や魅力ある農業を目指すものです。

改革には多くの問題が

しかし、この改革は多くの問題があります。農家の多くが赤字経営なのに規模拡大ができるのか、農業委員の公選制を首長の選任制にするのは民主主義に反す



農業改革の問題点を研究 (福島アールサ)

るのではないか、などです。**日本の農村文化が破壊される**

そして、最大の問題は規

傍聴者からの

声

「資料が配られ、 わかりやすかった。」

12月議会を傍聴したみなさんからアンケートにより感想をお聞きしました。

- 質問事項と要旨が書いてある資料が配られ、聞いていてわかりやすかった。(60代・男性)
- 各議員が勉強していると感じられた。(女性)
- 議員の質問、町長や課長の答弁の内容が明確でわかりやすかった。(60代・男性)
- 町内会の質問が多かったが、町全体の問題を取り上げたほうがよい。(男性)
- 質問や答弁の発言はもっとゆっくり、はっきりしてほしい。(男性)
- 傍聴者が少ないので、休日議会や夜間議会を開催してはどうか。(50代・男性)
- 議会だよりの配布だけでなく報告懇談会も開催するのはいいことだと思う。(70代・女性)

議会の動き

| | |
|---------------|--|
| 12月9日 ～12日 | 12月議会定例会 |
| 12月9日 | 総務文教常任委員会、産業厚生常任委員会 |
| 12月10日 | 議会改革推進会議 |
| 12月11日 | 3.11大震災復興対策特別委員会(現地調査) |
| 12月15日 | 税の作品コンクール表彰式 |
| 12月16日 | 東日本大震災復興復興対策推進国見町民会議小坂方部会 |
| 12月17日 | 東日本大震災復興復興対策推進国見町民会議役員会 義経まつり実行委員会、町表彰祝賀会 |
| 12月18日 | 地方自治研究交流セミナー [第2回] (福島市) |
| 12月19日 | 公立藤田病院組合議会臨時会 |
| 12月23日 | 阿津賀志山ビッグツリー点灯式、明日へ。復興・ きずなイルミネーションキャンドルパーティー |
| 12月25日 | 東日本大震災復興復興対策推進国見町民会議総会、 森江野方部会、藤田方部会 |
| 12月26日 | 町都市計画審議会 |
| 1月4日 | 町消防団出初式 |
| 1月5日 | 新春賀詞交歓会 |
| 1月7日 | 交通三団体交通安全祈願祭 明日へ。復興・きずなイルミネーションクロー ジング・パーティー |
| 1月8日 | 広報編集委員会、年始知事懇談会(福島市) |
| 1月10日 | 国見地区建築業組合定期総会新年会 |
| 1月11日 | 町成人式 |
| 1月14日 | 総務文教常任委員会 |
| 1月15日 | 産業厚生常任委員会(現地調査) |
| 1月17日 | 安藤政治氏叙勲披露宴 |
| 1月21日 | 広報編集委員会、議員懇談会 |
| 1月22日 | 地方自治研究交流セミナー [第3回] (福島市) |
| 1月27日 | 県町村議会議長会理事・監事合同会議(福島市) 伊達郡町村議会正副議長会議(福島市) |
| 1月28日 | 議会運営委員会調査(宮城県大和町、大郷町) |



議会傍聴をしてみませんか

次の定例会は**3月5日開催予定**です

手続きは、受付簿に住所・氏名などを記入するだけで気軽に傍聴できます。また、議案審議がわかりやすくなるよう、傍聴者には議案資料を提供します。

詳しくは議会事務局へお問い合わせ下さい。
TEL585-3295(直通)

**まちづくりを
考えた改革を**

今回の『農業改革』は、農業だけでなく将来のまちづくりに大きな影響を与える問題を抱えているので、真剣に取り組むべきです。

(報告者 阿部泰藏)

模拡大により専業農家と兼業農家が混在する日本型農村社会を崩壊させ、人口流出を促進させることです。

みんなで知恵を出して 子孫にこの町を残そう

どこの自治体でも人口減少に歯止めがかからず、交流人口を増やす対策を講じています。町でも応援団ツアーなどを企画し、首都圏の人に来てもらい、町民と顔の見える交流を図っています。また、国見から首都圏に出向き特産品の販売やおいしい食べ方を教えて信頼を深めています。今後も継続して相互理解を深める関係を大切にしていかなければならないと思います。

町民の関心事のひとつに計画中の道の駅があります。11月に地元野菜を使った料理コンテストありました。

優秀な料理は道の駅のメニューに採用されるそうです。道の駅の準備が着々と進められており、町民の生きがいや癒しの空間、観光客との交流の場になってほしいと思います。

先日、議会を傍聴する機会があり、政治の大切さを感じました。

地域に密着し、町民の利便性をはかり、快適で安心安全に暮らすためにも、私たちが選んだ議員に意見を言うことが大切です。

私たちも広報紙や回覧などをよく見て、催し物に参加し、町を盛り上げていきましよう。今こそ「人づくり」をして、町を愛し、永く栄える町を子孫に残せるよう知恵を出し合って行動しなければと思います。

今を生きる「旬」な人が住む国見町なのだから。



鈴木 恵子

(川内町内会)

町内各団体との連携を確認

新春賀詞交歓会

1月5日、町主催の新春賀詞交歓会がみらいホール国見で行われ、議員全員が参加しました。町内会長や商工会、伊達みらい、藤田病院など町内各団体の関係者140人が参加し、新年のあいさつと町の復興や道の駅、活力事業などに連携して取り組むことを確認しました。



新春賀詞交歓会で新年のあいさつと連携を確認
(みらいホール国見)

編集後記

新年あけましておめでとうございます。よい年をお迎えのことと思います。12月に議員全員で復興のシンボルとなる新庁舎建設の進捗状況を調査しました。完成は3月にすれ込むようです。

新庁舎にはエレベーターが設置され、議場がある3階へまっすぐ行くことができ、大変便利になります。

また、傍聴席は議場を見渡せる席になり大変見やすくなります。さらに、車いすの人も傍聴できる場所が用意されています。

議員にとっては町民みなさんに傍聴していただくことが何よりの励みとなります。完成の折には是非新しくなった議場に足を運んでいただきたいと思います。(F・S)

- | | |
|--------|-------|
| 議長 | 八島 博正 |
| 副議長 | 志村 良男 |
| 編集委員長 | 渋谷 福重 |
| 編集副委員長 | 渡辺 勝弘 |
| 編集委員 | 村上 晴夫 |
| 同 | 阿部 泰藏 |
| 同 | 村上 正勝 |
| 同 | 井砂 善榮 |